

■設置の目的

小牧市では、令和4年度に小牧山山頂の小牧市歴史館(現:小牧山歴史館)の展示内容を、これまでの歴史民俗資料を紹介する展示から、戦国時代の小牧山まつわる展示へと改装を行いました。これに伴い、市内の原始・古代から近現代までの歴史や文化財を紹介するための展示施設を新たに整備し、小牧の歴史を市民に伝えていくことが急務となっています。このため、郷土の歴史民俗資料を展示・活用し、市民交流の場、学びの場として、郷土愛、シビックプライドを育てていくことを目的として、(仮称)歴史民俗資料展示施設を設置します。

■設置場所の概要

設置場所: 小牧市小牧三丁目555番地 ラビオ4階
設置規模: 約200㎡ 現市民ギャラリーを改装
施設全体(ラビオ)管理: 小牧都市開発株式会社



■ターゲット

メインターゲット



小牧市の歴史に触れてみたい人 (市民)

サブターゲット



市外からの来訪者

施設の設置目的を達成するために、小牧の歴史と文化に興味を持ち、触れてみたいと思う、子どもから大人まで多くの市民を対象に、自分たちの足元にある脈々と続く人々の営み、身の回りにある他に誇れる小牧の文化財に気づいてもらえる場とすることで、郷土愛が育まれる基盤を作っていきます。また、市外からの来訪者にとっても、小牧がどのような場所であったかを、分かりやすく端的に伝えられる場とします。

■コンセプト

「こまき」の「スゴイ」を発見!

「歴史=年号を覚える。」という苦手意識を払拭し、自分たちが暮らす小牧の歴史の凄さを体感的に伝えます。当時を彷彿とさせる遺跡、史跡のスケール感、そこに生きた人々の痕跡を、実物の資料とともにストーリーとして伝えていきます。「こまき」の「スゴイ」にだれもが気づく場とします。

■基本方針

○ 実物と出会う機会とする

歴史施設ならではの「実物が見られる」という、貴重な体験を提供する。
実物資料を通して、歴史は今に繋いできた物語であることとして捉えてもらう。

○ 「モノ」「コト」に潜むストーリーを伝える

実物資料や遺跡など、その裏にある情報を伝えていく。

○ 周辺施設と連携し、歴史・文化と出会う場を広げていく

小牧の歴史・文化を伝えるために、周辺施設と連携し、当施設から歴史・文化に出会う場を広げていく。

■改修の方針

● 安全に配慮する

素材や形状に配慮し、誰もが安全に過ごせる場としていきます。

● 資料展示施設として、防犯・防火に配慮する

貴重な実物資料を展示する施設として、防犯・防火に配慮します。

● 既存設備を可能な範囲で活用する

環境配慮への観点から、可能な範囲で既存の設備等を活用していきます。

■運営・管理の方針

● 管理運営形態

市直営での運営を原則とします。

● 人員配置

管理面、来場者サポートを考慮し、人員を配置します。

● 入場料

入場料は無料とし、気軽に入場してもらうことで、より多くの人に小牧の歴史を知ってもらう機会を増やします。

● 開館時間・休館日

ラビオ4階の他施設を基本として設定します。

※今後、費用対効果を鑑み開館時間の延長・短縮や休館日の追加も検討します。

■展示構成

基本構想で掲げた、コンセプト、基本方針等を踏まえ、多くの市民・市外からの来訪者が「こまきのスゴイ」に出会い、小牧の歴史に興味を持ってもらえるような展示構成とします。
小牧を語る上で重要なテーマを3つ(古墳・大山麿寺跡/篠岡古窯跡群・宿場町)取り上げ、写真では分からない遺構などの実際の大きさや、遺物の多さを体感できる展示を目指します。

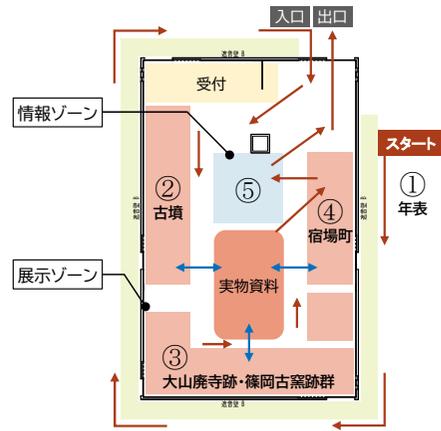
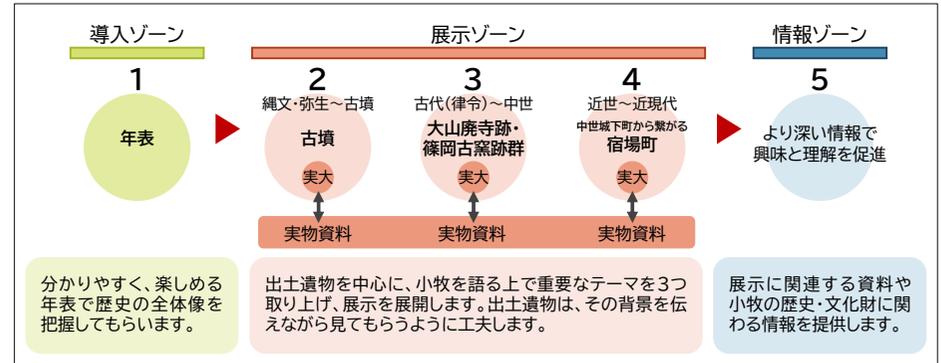
大項目	コーナー名称(中項目)	ねらい・訴求内容
1. 自分に繋がる歴史の流れと小牧の歴史		
歴史の流れを知る 日本の歴史が、自分に繋がるものであることを知り、歴史＝自分の事と感じてもらいます。	年表: 日本の歴史と小牧の歴史 旧石器～現代	日本の歴史と併せて小牧の歴史を伝えます。小牧が昔はどのような場所だったか、どんな役割を担っていたかなど、全体から小牧を捉えます。
		小牧の文化財紹介
2. これだけは知って欲しい！こまきの3大・スゴイところ！		
遺跡の大きさと遺物の量で凄さを体感 小牧には、国指定史跡が2か所、その他にも多くの遺跡や文化財があり、遺跡からはさまざまな貴重な資料が出土しています。原始・古代から近現代に至る小牧の歴史のうち「スゴイ」特徴を3つに絞り、「小牧といえばコレ。」と誰もが気づく展示とします。	【1】 銅鐸・銅鏡＋古墳 弥生～古墳	「スゴイ」前期・中期・後期の古墳がそろい踏み 小牧には数多くの古墳が存在し、それぞれの地域に権力者がいた事が分かります。自分達の身近にある「古墳」とは何なのか、そこから発見された「モノ」は何を語るのかを伝えます。来場者には、古墳の実際の大きさや時代による特徴、副産品の実物展示とその解説を見てもらいます。
	【2】 国指定史跡大山麿寺跡 古代(律令)～中世 篠岡古窯跡群	「スゴイ」謎の山岳寺院 大山麿寺跡 小牧市東北部の山中に、僧坊(寺院内における僧侶の住む建物)が3千あり「西の比叡山」とも比べられた大寺院が何故建てられたのか？その全体像は？国指定史跡である「大山麿寺跡」は、まだまだ分からない部分が多いですが、その不思議も特徴として来場者に伝え興味をもってもらいます。 「スゴイ」600年にわたり100基以上が築かれたあな窯 小牧の特徴として代表的な「篠岡古窯跡群」に触れます。尾北古窯跡群(尾北窯)の中心を占める篠岡古窯跡群の歴史や焼き物の変遷、当時の日本の中心地であった京都・奈良方面をはじめ、東国地方にも出荷され、都や地方の役人にも珍重された小牧産の陶器について伝えます。
	【3】 中世城下町から繋がる宿場町 近世～近現代	「スゴイ」織田信長や尾張徳川家に関わる町 織田信長の城下町から近世の宿場町へ至る変遷を紹介します。身近な場所が少し前にはどんな風景だったのか、今でも見つかるといえる痕跡などから、現在の小牧市の中心市街地につながる「まち」の歴史を感じてもらいます。 トピック1:小牧の新田開発 トピック2:展示更新パネル
3. 検索コーナー		
昔の人の生活や文化を、より深く情報検索できるようにし、興味と理解を促進します。	情報ゾーン	当施設では伝え切れない、小牧市に残る文化財や続けられている発掘調査や研究の成果を公開し、来場者の興味に応じて情報が入手できるようにします。

■展示プラン

「実物資料を中心に、各時代展示を周囲に展開」

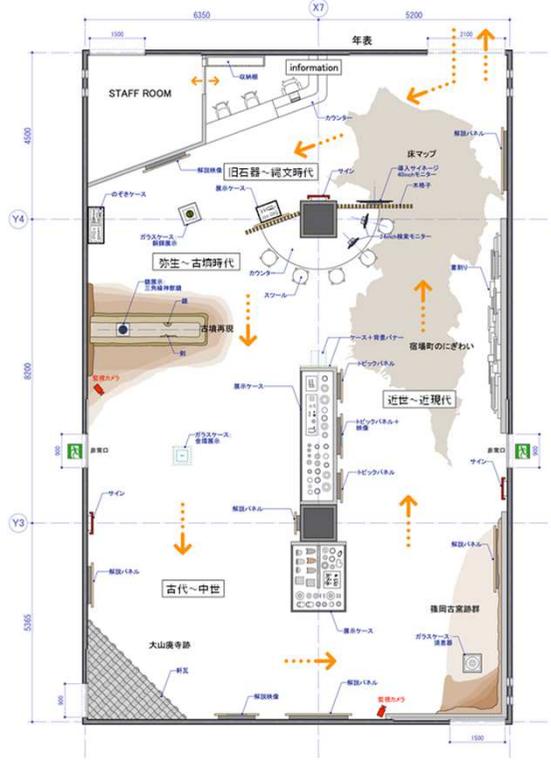
～ 実物資料を一箇所に集め資料をじっくり見られると同時に、時代の解説と行き来できる仕組み～

展示の基本的な流れ



特徴

- 出入口を1か所とし、スタッフが来場者を管理をしやすくする。
- 目視できない場所には、受付で見られる監視カメラを設置。
- 職員の常駐・執務スペースを兼ねて受付を大きく取る。
- 資料を中央へ集約する事でケースを効率化し、かつ展示を見ながら自分の興味に応じて実物資料が見られる仕組みとする。
- 情報ゾーンを設け、学びを深められる情報を提供する。



■イメージパース

■事業スケジュール

■概算工事費



本構想・計画を基に令和6年度に基本設計・実施設計、令和7年度に展示製作を行い、令和8年度に開館予定です。

概算工事費は、間仕切り壁の撤去等の改修工事費として約650万円、展示に係るハード製作、ソフト制作に係る各費用等は、小牧山歴史館展示改装費(令和5年3月竣工)の平米単価(約248,000円/㎡)を基に算出し約5,000万円、諸経費・消費税を合わせて合計約6,000万円を想定しました。

※昼間の工事を想定し、物価上昇率は見込んでいません。

■本構想・計画検討の経緯

本構想・計画の策定にあたっては、第2回～第4回の小牧市文化財保護審議会において、指導および助言を受け、確認検討の上、策定しました。

小牧市文化財保護審議会の開催経過

第2回 小牧市文化財保護審議会

日時：令和5年10月27日(金) 午前10時
場所：小牧市役所 東庁舎4階 本会議用控室
議題：(仮称)歴史民俗資料展示施設基本構想について

第3回 小牧市文化財保護審議会

日時：令和6年2月13日(火) 午前10時
場所：小牧市役所 本庁舎4階 404会議室
議題：(仮称)歴史民俗資料展示施設基本構想・基本計画について

第4回 小牧市文化財保護審議会

日時：令和6年3月14日(木) 午前10時30分
場所：まなび創造館 5階 研修室
議題：(仮称)歴史民俗資料展示施設基本構想・基本計画について

小牧市文化財保護審議会委員名簿

区分	氏名	備考
美術史(絵画)	池田 洋子	名古屋造形大学名誉教授
美術史(彫刻)	小野 佳代	東海学園大学教授
古文書	藤堂 修一	小牧市古文書調査会代表
考古学	中嶋 隆	史跡小牧山整備計画専門委員
民俗	越川 次郎	中部大学教授
植物	村松 正雄	愛知県環境審議会専門調査員
植物	増田 理子	名古屋工業大学大学院教授
郷土史	西川 菊次郎	愛知県文化財保護指導委員
郷土史	富嶋 明人	一色小学校長

※実大一部復元やケース、仕物のサイズや仕様は、設計段階で詳細を決めていくこととなります。